

(平成 28 年度の実績評価)

総合計画体系	政策No.	4	政策名	心豊かな人と文化をはぐくむまちの形成	施策主管課	教育委員会 生涯学習課
	施策No.	22	施策名	青少年の健全育成	施策主管課長名	名執 彰一
施策関連課名						

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) *人や自然資源等	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか)
青少年(12歳~20歳と定義) 市民	大きな夢を持ち、その夢に向かい一生懸命生きる。 健全に育つ。(非行に走らない。) 大人から目を向けられる。 地域が一体となり健全育成のための環境が整備される。
対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
① 対象指標	ア 青少年数	人	見込み値		7,238	7,213	7,189	7,164	7,139	7,115
			実績値	7,262	7,220	7,103	7,088			
	イ 市人口	人	見込み値		72,644	72,322	72,001	71,680	71,359	71,038
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018			
	ウ		見込み値							
			実績値							
② まちづくり指標	A 家庭や地域ぐるみの青少年教育に関する市民の満足度	%	目標値		34.0	28.0	30.0	32.0	34.0	36.0
			実績値	26.5	23.7	24.3	22.8			
	B 青少年の補導件数	人	目標値		697	404	398	392	386	380
			実績値	415	331	313	412			
	C		目標値							
			実績値							
	D		目標値							
			実績値							
	E		目標値							
			実績値							
まちづくり指標設定の考え方				A: 青少年の健全育成に関する市民の評価を示す。 【市民アンケートの『家庭や地域において、健全育成のための青少年教育が行われていると感じますか』において、「感じる」「まあまあ感じる」と回答した人の割合】						
【まちづくり指標の測定規格(アンケートか、統計か、数式など)】				B: 青少年の非行・犯罪防止対策の効果を示す。 【南アルプス警察署が把握している補導件数】						
目標値の設定の根拠(前提条件や考え方等)				A: 現行値から5年間で約10%の増加を目標に設定 B: H27年からH37年までに10~19歳人口は18%減ると想定されている(H27:7,796人、H37:6,388人)ことから、子供たちの人口減少を勘案してH36年度340人、中間年は380人を目標とする。						

3 予算等の推移

※当初予算額。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
関連事業本数	21	21	14	14	14		
関連事業予算額(単位:千円)	19,303	18,924	19,047	18,882	18,784		
(予算額の内訳)	国庫支出金	235	194	207	223	231	
	県支出金	235	194	207	223	231	
	地方債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	18,833	18,536	18,633	18,436	18,322	

#### 4 評価結果(施策の有効性評価)

##### ① 目標達成度評価 (目標値と実績値との比較)

- 目標値より高い実績値だった  
 目標値どおりの実績値だった  
 目標値より低い実績値だった

###### ※左記の理由

指標Aについては、5年間で10%増を目標値に掲げているが、実績値は対前年比でほとんど変わらず、目標値より低い数値であった。指標Bについては、前年実績より大幅に悪化している。補導件数で412件と対前年比99件の増で、内訳は深夜徘徊が81% (334件、前年比119件増)を占めていた。要因としては、同じ子どもが何回も補導されていた。

##### ② 時系列比較(過去3ヶ年程度の比較)

- 成果がかなり向上した  
 成果がどちらかと言えば向上した  
 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)  
 成果がどちらかと言えば低下した  
 成果がかなり低下した

###### ※左記の理由

指標Aの市民満足度については、青少年の健全育成には、学校、家庭、地域が連携して地域ぐるみで子どもを育てる環境が重要であり、市民会議を中心にあいさつ運動、環境点検等実施している。市民会議の活動については、毎年1回活動実績として広報紙の発行を行っているが、市民への認知度が低いものと推測される。

##### ③ 他自治体との成果実績値の比較

- かなり高い成果水準である  
 どちらかと言えば高い成果水準である  
 ほぼ同水準である  
 どちらかと言えば低い成果水準である  
 かなり低い成果水準である

###### ※左記の理由

「市民全体で青少年を育てよう」という気運を高めるため、地域で青少年育成活動を行い、各種関係団体・機関との連携を密接に図り、青少年の健全育成活動を推進している。同様な比較はないが「地域の子どもは地域で守り育てる」という目標は他自治体も同じであるが、核家族化の進行やコミュニティの希薄化など青少年を取り巻く社会環境は一緒であり、ほぼ同水準であると推測される。

##### ④ 住民の期待する成果水準との比較

- かなり高い成果水準である  
 どちらかと言えば高い成果水準である  
 ほぼ同水準である  
 どちらかと言えば低い成果水準である  
 かなり低い成果水準である

###### ※左記の理由

市民会議による市内環境巡回調査や各支部事業による愛のパトロール等の実施のほか市内全域あいさつ運動を展開している。また警察や関係機関と連携しながら青少年の指導にあたっているが、市民の青少年の健全育成への期待度69.2%に対して、満足度は27.6%と低かった。市民満足度が低いのは、市民会議の活動が支部により偏りがあり、市民への広がり不足していると思われる。

#### 5 まとめ(課題の抽出とその解決に向けた取り組み)

施策の課題 (現状の問題点)	課題を解決し、施策の実現を図るための取り組み方針	
	課題解決の方向性	具体的な改善策・取り組み内容
市民会議の活動が支部により偏りがあり、市民への広がり不足している。(支部によって市民会議への関わり温度差がある)	青少年育成コーディネーターが事務局となり、市民会議各支部の活動を充実させていく。	青少年育成市民会議の活動推進 ・「声かけ・あいさつ運動」の展開 ・環境点検(通学路・公園等)の実施 ・支部子どもまつりの開催 子どもクラブ交流 ・子どもクラブ親睦球技大会の開催
スマートフォンなど情報機器の普及や多様化に伴い、SNSによる誹謗や中傷、いじめなど子どもを巻き込む犯罪行為が懸念される。	情報機器の利用やモラル、マナーに関する情報教育の推進	インターネット上のモラルやマナーの向上に関する啓発、ネット犯罪から身を守る行為の普及など、情報教育や道徳教育の一層の充実を図る。 ・研修会の実施 ・出前講座(教育を語る会)の拡充 ・各種イベントでの情報教育の推進 ※より多くの保護者・教員・子どもの参加が図れるよう実施していきたい。